

委員団体の活動紹介



SHINKIN 信用金庫

一般社団法人
全国信用金庫協会

東日本大震災で被災された方々のために、 信用金庫業界が一丸となって各種取組を実施 地域の絆を大切にしよう力を発揮

信用金庫は、地域で暮らす人たちが、

地域社会の未来のために自分たちの金融機関を創りたいという志から生まれた、相互扶助、非営利を经营理念とする協同組織金融機関です。全国信用金庫協会は、全国271の信用金庫と信金中央金庫を会員とし、信用金庫業界の発展や、中小企業・地域の方々との「絆」を大切にしよう力を発揮するための、さまざまな活動を行なっています。

東日本大震災から1年が過ぎましたが、改めて、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。一日も早い復興をお祈りしております。被災地域の信用金庫は、震災発生直後から自らも被災者でありながら金融機能、決済システムの維持はもとより、被災された方々への生活支援も含め、日頃の「Face to Face」の関係を活かし、地域の運命共同体の中核として、その役

割を懸命に果たしてきました。

こうした事態の中で、信用金庫業界を挙げて、被害にあわれた方々、被災地域の信用金庫への支援活動を実施しています。震災直後には、ルートや手段を検討し緊急支援物資を配送するとともに、避難先でもお客さまへの預金代理払いが可能となるよう態勢を整備しました。このほか、全国7500店舗を超える信用金庫窓口での義援金のお取扱いは、多くの方からの善意により50億円を超える規模となりました。信用金庫業界役員（12万人）を対象とする2千円募金の県・市町村への寄贈、「しんきん地域応援キャンペーン」のオープン懸賞応募件数に応じた「あしなが育英会」への寄付なども実施しています。また、全国の信用金庫職員がボランティア活動に参加し瓦礫撤去や家具の運び出しに携わったり、特産品紹介、観光客誘致に協力するなど、被災地域

の実情に応じて、信用金庫の総合力を発揮しながら、様々な活動に取り組んでいます。

信用金庫業界は、今後とも地域の皆さま、中小企業のために全力を尽くしてまいりますので、ご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。



物資運搬、瓦礫の撤去作業、炊き出しなど、さまざまな活動が行われた。現在でも、個別信用金庫からは継続してボランティアが派遣されている。



社団法人
全国労働金庫協会

「生活応援運動」を通じ、 社会人となる前に必要な消費者教育を 高校生・大学生を対象に実施しています。

〈ろうきん〉は2007年から「生活応援運動」を統一的な取組みとして展開

しています。「生活応援運動」とは、『労働者の生活のうち「お金」にまつわる諸

問題の解決のために、勤労者のための金融機関である〈ろうきん〉が、会員労働組合との連携のもとで、情報を提供

し、相談に乗り、具体的な提案・アドバイスをを行う運動』です。

「生活応援運動」の柱は「生活改善」「生活防衛」「生活設計」の3つです。

この「生活防衛」の具体的な取組みとして、マネートラブルや多重債務に陥ら

ないための啓発活動・消費者教育を、会員労働組合や一般勤労者、さらに社会人となる前の高校生・大学生を対象

に実施しています。

全国の〈ろうきん〉では高校生・大学生を対象としたセミナーを、2006

年度から現在までに728回開催し、8万4500名を超える学生の参加が

ありました。また、当会も2008年から日本大学商学部「金融サービ

ビジネス」講座や金融広報中央委員会主催の「金融教育フェスティバル」に講師を派遣しています。

こうしたセミナー等で活用するツールが「マネートラブルにかつ!」という冊子です。様々なお金にまつわるトラブル

の事例を漫画でわかりやすく紹介し、その解決方法を記載しています。この冊子は、2005年に作成して以来、合計150万部を発行しました。最近では、新潟県(上越市・長岡市・糸魚川

市・妙高市・燕市・三条市・小千谷市等)や静岡県(焼津市・南伊豆町等)で、市の予算でこの冊子を増刷し全戸

配布したり、地域の学校での消費者教育の教材として活用される等幅広く活用されています。

2012年は国連が定めた「国際協同組合年」です。これは協同組合がも

たらす社会経済的発展への貢献が認められた証でもあり、労働形態も積極的に参画し、社会的役割を發揮していき

ます。その取組みのひとつがこれからの社会を担っていく学生等の若年層への金融教育の実施です。

営利を目的としない協同組織の福祉金融機関〈ろうきん〉だからこそできる働く人の目線に立った「生活応援運動」にこれからも取組んでまいります。



<http://all.rokin.or.jp/>